

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月12日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福  
 コード番号 2058 URL http://www.k-higashimaru.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 紘一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長 (氏名) 木通 昌生 (TEL) 099-273-3859  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績 (平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	10,177	12.7	689	9.7	752	9.1	394	3.0
27年3月期第3四半期	9,026	12.2	628	27.7	689	29.6	383	△14.4
(注) 包括利益 28年3月期第3四半期	402百万円( 5.7%)		27年3月期第3四半期		380百万円(△17.7%)			

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	83.89	—
27年3月期第3四半期	81.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	12,482	6,013	48.2
27年3月期	11,415	5,653	49.5
(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期	6,013百万円		27年3月期 5,653百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
28年3月期	—	0.00	—		
28年3月期(予想)				8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,839	11.4	575	1.2	594	△8.6	267	△23.4	56.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	4,746,000株	27年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	40,889株	27年3月期	40,889株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	4,705,111株	27年3月期3Q	4,705,111株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府等による各種政策の維持、堅調な企業業績及び雇用情勢等に支えられているものの、新興国を中心とした景気減速懸念や欧州などの不安定な情勢により、国内景気は踊り場状態と見られるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループを取り巻く事業環境は、主原料（魚粉・小麦粉・大豆等）の価格は高値圏で推移しているほか、消費者の節約・低価格志向は根強く、企業間の価格競争が続く厳しい環境で推移いたしました。

こうした環境の下、当社グループは市場動向を見極めながら積極的な販売活動を展開するとともに、材料コスト上昇分を販売価格に転嫁するなど、売上成長を模索しながら利益水準の維持・向上に取り組んでまいりました。

一方、事業領域の拡充や販路拡大など攻めの体制を推し進めるなか、平成26年11月に子会社化した永屋水産株式会社（東京都中央区）の業績が通期計上となりました。また、水産事業のさらなる伸長を図るため、平成27年8月に永屋水産株式会社において、奄美クルマエビ株式会社（鹿児島県奄美市）を子会社化（当社の孫会社）いたしました。

なお、奄美クルマエビ株式会社は、第2四半期連結会計期間末（平成27年9月30日）を支配獲得日とみなして処理していることに伴い、同社の業績は当第3四半期連結会計期間から連結業績に含めております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は101億77百万円と前年同期と比べ11億50百万円（12.7%）の増収、営業利益は6億89百万円と前年同期と比べ61百万円（9.7%）の増益、経常利益は7億52百万円と前年同期と比べ62百万円（9.1%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億94百万円と前年同期と比べ11百万円（3.0%）の増益となりました。

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ①水産事業

水産事業におきましては、中南米の輸入魚粉マーケットは、順調な漁模様で魚粉相場安含みの値動きにあるものの、最需国である中国や欧州の需要は堅調であることから高値基調を維持しており、今後の相場見通しは需給バランス次第という見方が強く不透明な状況が続いております。

このような状況のなか、魚粉原料価格高騰分を販売価格に転嫁し、平成27年4月からエビ類及び魚類用配合飼料の値上げを実施いたしました。当第3四半期連結累計期間は、台風や長梅雨の天候不順から低水温であったことや梅雨明け後の赤潮発生などにより、養殖用配合飼料の使用量が減少し、値上げ前の前期販売消化遅れの影響（反動減）を受けました。

これにより、ハマチ飼料類及びマダイ飼料類は、前年同期を下回りましたが、エビ飼料類は、第3四半期連結会計期間において、養殖環境が改善したことやシェア拡大が図られたことなどにより、上半期の遅れを取り戻し増収で推移いたしました。

一方、子会社のマリンテック株式会社（愛知県田原市）は、水産初期飼料の販売は振るわなかったものの、水産種苗の生産・販売が順調に推移し増収となりました。また、永屋水産株式会社（マダイ・カンパチを主とした活魚及び配合飼料の販売）の業績が通期で寄与し、奄美クルマエビ株式会社（クルマエビの生産販売）の業績が当第3四半期連結会計期間から寄与しております。

その結果、売上高は71億2百万円と前年同期と比べ9億33百万円（15.1%）の増収となりました。セグメント利益は6億87百万円と前年同期と比べ67百万円（10.9%）の増益となりました。

## ②食品事業

食品事業におきましては、雇用・所得環境の改善基調から消費者マインドは上向いているものの、暖冬の影響で季節商品が抑制されたほか、訪日外国人によるインバウンド需要を除けば、個人消費の力強さに欠ける結果となり、消費者の節約・低価格志向が根強く、企業間の価格競争が続く厳しい事業環境で推移いたしました。

このような状況のなか、原材料及び物流費等に係るコストが年々増加している影響から、平成27年4月、自社ブランド商品の販売価格の値上げを実施いたしました。これにより、そうめん類は長梅雨の影響もあって販売が伸びず前年同期を下回ったものの、主力商品の皿うどん類及び即席めん類が値上げ効果のほかPB商品（販売店独自の商品）企画提案や新規ルート顧客開拓で順調に推移し前年同期を上回りました。

一方、子会社のコスモ食品株式会社（横浜市磯子区）は、カレールー・シチュールー商品を中心に定番導入が進み、また、株式会社向井珍味堂（大阪市平野区）も、穀粉類（きな粉等）及び香辛料類の販売が順調に推移し、前年同期を上回りました。

その結果、売上高は30億74百万円と前年同期と比べ2億16百万円（7.6%）の増収となりました。セグメント利益は3億円と前年同期と比べ57百万円（23.6%）の増益となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ10億66百万円増加し、124億82百万円となりました。これは、主として現金及び預金が5億24百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が10億78百万円、のれんが2億99百万円、原材料及び貯蔵品が1億70百万円増加したことなどによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ7億6百万円増加し、64億69百万円となりました。これは、主として賞与引当金が65百万円減少しましたが、買掛金が6億79百万円、固定負債のその他が58百万円増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ3億60百万円増加し、60億13百万円となりました。これは、主として利益剰余金が3億52百万円増加したことなどによるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績予想につきましては、平成27年5月15日開示の「平成27年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第2四半期連結累計期間において、当社の連結子会社である永屋水産株式会社が奄美クルマエビ株式会社の発行済株式の全てを取得したことに伴い子会社となったため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,284,990	1,760,815
受取手形及び売掛金	1,720,370	2,798,533
有価証券	96,352	-
商品及び製品	427,179	454,598
仕掛品	99,588	97,793
原材料及び貯蔵品	1,110,048	1,280,054
その他	166,005	132,222
貸倒引当金	△12,303	△19,299
流動資産合計	5,892,231	6,504,717
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,177,451	1,250,852
機械装置及び運搬具(純額)	693,590	683,300
土地	2,091,642	2,026,363
その他(純額)	48,923	166,420
有形固定資産合計	4,011,607	4,126,936
無形固定資産		
のれん	444,954	744,538
その他	28,801	53,714
無形固定資産合計	473,756	798,252
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,078,821	1,093,357
貸倒引当金	△40,482	△40,482
投資その他の資産合計	1,038,339	1,052,874
固定資産合計	5,523,703	5,978,063
資産合計	11,415,934	12,482,781

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	792,883	1,472,126
短期借入金	1,990,100	2,031,012
未払法人税等	96,144	136,386
賞与引当金	116,463	51,160
その他	428,425	398,411
流動負債合計	3,424,016	4,089,096
固定負債		
長期借入金	1,683,450	1,650,417
役員退職慰労引当金	412,289	426,400
退職給付に係る負債	73,332	75,166
その他	169,115	227,933
固定負債合計	2,338,186	2,379,918
負債合計	5,762,203	6,469,015
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	458,400
利益剰余金	4,513,585	4,865,963
自己株式	△28,968	△28,968
株主資本合計	5,546,916	5,899,294
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,067	114,428
繰延ヘッジ損益	2,747	42
その他の包括利益累計額合計	106,815	114,470
純資産合計	5,653,731	6,013,765
負債純資産合計	11,415,934	12,482,781



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	9,026,339	10,177,074
売上原価	7,091,256	7,949,552
売上総利益	1,935,082	2,227,521
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	272,533	309,898
貸倒引当金繰入額	6,393	6,311
給料及び賞与	386,767	400,222
賞与引当金繰入額	19,571	20,009
退職給付費用	15,184	14,865
役員退職慰労引当金繰入額	12,085	14,111
その他	594,430	772,979
販売費及び一般管理費合計	1,306,965	1,538,397
営業利益	628,117	689,124
営業外収益		
受取利息	389	622
受取配当金	4,160	4,784
為替差益	44,017	414
受取保険金	17,102	20,901
固定資産売却益	643	18,090
雑収入	20,666	39,289
営業外収益合計	86,980	84,102
営業外費用		
支払利息	21,362	16,598
雑損失	4,207	4,582
営業外費用合計	25,569	21,180
経常利益	689,527	752,046
特別利益		
投資有価証券売却益	-	18,165
特別利益合計	-	18,165
税金等調整前四半期純利益	689,527	770,211
法人税、住民税及び事業税	162,553	229,451
法人税等調整額	143,572	146,036
法人税等合計	306,126	375,487
四半期純利益	383,401	394,723
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	383,401	394,723

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	383,401	394,723
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	33,050	10,361
繰延ヘッジ損益	△35,649	△2,705
その他の包括利益合計	△2,598	7,655
四半期包括利益	380,802	402,379
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	380,802	402,379
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,168,325	2,858,014	9,026,339	—	9,026,339
セグメント利益	620,040	242,703	862,743	△173,216	689,527

(注) 1 セグメント利益の調整額△173,216千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費205,636千円、営業外収益45,218千円、営業外費用12,797千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「水産事業」セグメントにおいて、永屋水産有限会社の全株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これによりのれんが91,413千円発生しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	7,102,130	3,074,944	10,177,074	—	10,177,074
セグメント利益	687,835	300,089	987,924	△235,877	752,046

(注) 1 セグメント利益の調整額△235,877千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費235,155千円、営業外収益9,762千円、営業外費用10,485千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「水産事業」セグメントにおいて、奄美クルマエビ株式会社の全株式を取得したことにより、新たに連結の範囲に含めております。これによりのれんが367,746千円発生しております。